講義年月日	2002年9月10日（火）
講演者	加藤　好郎氏（慶應義塾大学三田メディアセンター事務長）
テーマ	専門職とは:その具体的な育成方法
講義内容	**1.慶應義塾図書館が21世紀に目指すもの** ・不変のサービス→文明の継承、知的生産、人格の陶冶という大学の使命を支援する。 ・新サービス→インターネット環境下での新事業展開を企画実行できる。 ・教育支援から研究支援へ→高度な質問に耐え得る知識、技能、感性を身につける。 ⇒「専門職」としてのコンセプトをしっかり持った図書館員が支えてゆく。 **2.「専門職」育成の取り組み** ・海外研修・学会参加を通じ、国際感覚を身に付けたリーダーを育成する。 ・アーカイブの目録作成作業を通じ、作成方法、研究方法、資料へのアプローチ法を知る。 ・書誌学者から学び、共通の言語を持つことで、目録作成、選書判断において同等の対応ができる。 ・書誌事項の検索・分析を通じ、解題を作成することで、主題の書誌・内容に関する知識を体系化する。 ・蔵書をデジタル化する事業が活発化する中でそのノウハウを修得し、デジタル・リサーチ・ライブラリアンを育成する。 ・利用者への情報リテラシー教育を通じ、教えるという視点から再度業務（サービス）を見直す。 ・新しい事業展開に向けての基礎研究（例：法科大学院設立に伴う法学図書館員の育成）。 ・（図書館・情報学専攻以外の）他専攻、他大学からの受け入れを用意することで（図書館・情報学以外の）主題専門家を育成する。 ・研修会・抄読会を実施し、学習の場を提供することで現場の図書館員の研究意欲向上を図る。 **3.「専門職」としての7つの機能** ・***University Librarian***:図書館のリーダー。図書館経営ができ、館員のモチベーションを高める。図書館の収益を上げられる組織を構築できる。 ・***Bibliographer***：書誌の専門家。従来の選書、貴重書の収集に加え、電子データベース、ネットワークの環境を整えるなど、図書館の蔵書の構築、発展を考えることができる。 ・***Archivist***：一次資料専門家。文書、記録書、各種統計類の知識と技能を持ち、文明の継承と知的生産を支援する。 ・***System Librarian***：システム開発・管理、自館コレクションのデジタル化、サービスマインドを持ったシステム開発者。 ・***Cataloger***：目録（書誌情報）の研究、MARCの標準化、MARC21への取り組み、文字コードの問題解決、Z39.50開発、メタデータへの取り組み。 ・***Reference Librarian***：データベースに対する知識と技能の確立。情報リテラシー教育、サーチャーとしての情報検索。 ・***Serials Librarian***：雑誌変遷の知識と供給技術。電子ジャーナル提供の判断(紙か電子か）自然科学系の図書館で特に必要とされる。 **4.将来の図書館と育成の理想パターン** 7人の専門職、その2～3倍のクレリカルスタッフ（事務職）、その2～3倍の派遣・業務委託で運営。専門職はそれぞれの分野での専門家であり、かつマネジメント能力が不可欠である。 採用後、3年間で3部門を経験（目録、選書、レファレンス）、この9年間は育成期間であり、専門職になりうるかを判断する。その後、7分野の1つの専門職として育てる（専門職にならない場合はクレリカルスタッフとなる）。
感想	自分が目指すべき専門分野について考えさせられた。そして「専門性」の必要性が問われる大学図書館界において、ただ担当業務の「専門家」になるのではなく、マネジメントができ、専門家の立場から自館の運営について発案し、企画実行できなくては「専門職」とは言えないのだと痛感した。
配付物	「専門職とは：その具体的な育成方法」
備考	加藤好郎　慶應義塾図書館が21世紀に目指すもの-専門職としての図書館員-」『大学図書館研究』、No. 60、2001、p 24-28. 加藤好郎　「大学図書館における専門職制度導入の必要性」『情報管理』、Vol. 45, No. 3、2002、p 202-205.